

佳作

おばけでかんしゃ

茨城県 日立市立会瀬小学校二年 柴田 莉緒奈

五さいだったわたしは、とつぜん前に読んだ絵本が読みたくなりました。ないしょの話をする時みに、お母さんの耳もとに、

「かわいいおばけちゃんがでてくる絵本が読みたいの。」

と小さなこえで言いました。

「本のだいな名は何、どこで読んだ本なの。」

少しこまったかおのお母さんに聞かれて「だいな名はせんせんおぼえてないけど、図書かんでかりた本だよ。」

それからわたしは、あたまの中で、ほわほわとうかびあがったかわいいおばけちゃんのことを思い出しながら、せつめいしました。

お母さんはスマホをつかってしらべてくれたけど、せんぶちがう本でした。

「本とうにその絵本読んだの？」

と小さなわたしに、少しあきらめたように言ってきたので、わたしは、

「ぜったいに読んだもん。」

とガンコに言いました。あきらめないわたしを見て、図書かんで読んだ本なら、図書かんで聞いてみよう、ということになりました。本のないようは、わたししかわからないので、じ分でせつめいすることにしました。

図書かんにつくと上手にせつめいができるか、とてもふあんになってきました。でもその時のわたしは、本にでてくるおばけちゃんにとってもあいたかったので、すぐドキドキしながら図書かんのうけつけの人に絵本のせつめいをしました。

ひょうしは、大きなお父さんおばけちゃんとお母さんおばけちゃんがならんでいること、お話のないようは、小さなかわいいおばけちゃんが、へびにのみこまれたけど、たすかってお父さんおばけちゃんとかかったねしていることをつたえることができました。

うけつけの人は、五さいのわたしの話をメモにのせてくれて、目の前のパソコンでしらべてくれました

た。でも見つかりませんでした。もう少しくわしくしらべて、何かわかったられんらくしてくれるとや
くそくして、家に帰ってきました。

そして、二、三日がすぎた日のことです。家のでん話がありました。お母さんがだれかと話しています。

「本とうですか。すごい。はい。はい。ありがとうございます。ございました。」

と、少しこうふんして話していました。

「これかなと思う本が見つかったって。」

ほかの図書かんの図書かんいんの人に、絵本のないようを話したら、わかる人がいたそうです。わたしはうれしくて、ジャンプしていました。見つけてくれた本は、もちろんあいたかったおばけちゃんの絵本でした。

わたしの町の図書かんには、小さな子のきおくの中の本もいっしょうけんめいさがしてくれる図書かんいんさんがいます。小学二年生になった今でも、かんしゃしています。